

FIWAREトレーニング

スマートシティ社会実装コンソーシアムの会員団体へ FIWAREトレーニングの提供を開始

2022/11/10

iHub Baseは、一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアム(以下、同法人)の会員団体向けにFIWAREトレーニングの提供を開始しました。

同法人は、会員団体のサービス開発を支援するためFIWARE Orionを使用した「開発環境」を提供しています。iHub Baseは、FIWAREに関する理解促進、および同法人が提供している開発環境の利用促進に向け、トレーニング動画を作成し、9月下旬より配信を開始しました。

<トレーニングの内容>

- ・FIWAREの概要
- ・開発環境の概要
- ・API利用方法 など



iHub Base
テクニカルマネージャ 中山

a. 標準かつオープンなAPI(NGSI)
標準化されたAPIを採用。APIをオープンにし、多様な主体による基盤への接続が可能

標準インターフェース・オープンAPIとは

- 標準化された共通のインターフェース
各システムが共通の仕様に従い、相互接続が可能
例えばコンセントは違う規格であると接続できないが、標準化された共通の接続口を設けることで他と繋がることできる。
- オープンAPI
多様な主体が接続可能

FIWARE の特徴

共通インターフェースとしてネットワークAPIの国際標準規格とされる“NGSI”を採用
NGSI:Next Generation Service Interfaces
OMA(モバイル事業者/ベンダの標準化団体)で標準化

更に、世界的に標準化を進める欧州電気通信標準化機構(ETSI)がNGSIを採用の上、NGSI-LDを標準化。
FIWAREでも今後採用の見通し。

ドメインを跨いだスマートなデータ連携
NGSIは異なる分野間/組織間のデータ連携を可能にする。

今後も、iHub Baseは、同法人と連携し、FIWAREと接続可能なサービス創出を目指し、取り組んでまいります。